

綴りの

輪

(61)

『金属腐食・防食の材料科学』という斯界の方々にとって定本となっている名著を著した下平三郎は、旧竜丘村の出身で生家は断層の上立つ名刹念通寺を見上げる駄科諏訪神社近くにあり、先代は鍛冶屋だったと言う。生まれたのは1912(明治45)年1月13日のことである。この年信越線水陸のアプト式が開通し、船舶無線SOSを打ち続けたと言われるタイタニック号の海難の2部を卒業せず退学し、1936(昭和11)年4月には、我が国ロケットの草分けの糸川英夫、数学者として名高い矢野健太郎がおられる。前述の高沢芳重・小塩完次が14、15歳の時である。竜丘小学校、高等小学

校に進んだものの飯田中学への進学は果たせず農業に従事したが、傍ら勉学の念止みがたく1930(昭和5)年18歳で専修に合格し、遂に上京して1933年4月東京物理学校第二部(夜間)に入学した。この学校は入学の問口は広いが、僅かしか卒業できないことで有名な厳しい学校であった。俊才下平青年は卒業し、さらに同数学部二部に進み、ここで物理、化学の教員免許を取得する一方で、昼間は東京大学工学部冶金学科の実験助手をという信じ難い生活をし、ここで当時最強の永久磁石MK鋼を發明した三島徳七助教授と巡り会った。同数学部第二部を卒業せず退学し、1936(昭和11)年4月に東京工業大学電気化学科に入学し、1939(昭和14)年3月に27歳で卒業する間にフレイト磁石を發明した武井武教授と巡り会っておられる。

金属腐食・防食学を極めた下平三郎

小塩 立 吉

〒101-8303

卒業後東京電機マツタ研究所に就職し、同時に東北大学金属工学研究所研究生となった。しかし、大東亜戦争中の1943(昭和18)年病を得て退社した。教員免許証を持っていたことが身を助け飯田女学校、飯田中学で教鞭を執った時期があった。終戦後健康を回復し1950(昭和25)年4月に、かつて研

究明産学協同でその対策を確立した功績で河北文庫を受賞、また、学術振興会から腐食防止論文賞を受賞しておられる。白鳥事件において犯人が撃った弾とされた黄銅の弾丸は、事件発生時に地中に埋まったものではなく、その後埋められたと言ふ実験結果を出したことで知られる。年代表的な著作に『腐食・

究員として言献したことのある東北大学金属工学研究所助手として迎えられる。翌年には助教授になり、1959(昭和24)年47歳で教授となられ、1975(昭和50)年に定年を迎えられ名誉教授とされたのであった。

この間の研究で発表された論文は高い評価を以て学会に迎えられ、酸性河水による工作物腐食を

究明産学協同でその対策を確立した功績で河北文庫を受賞、また、学術振興会から腐食防止論文賞を受賞しておられる。白鳥事件において犯人が撃った弾とされた黄銅の弾丸は、事件発生時に地中に埋まったものではなく、その後埋められたと言ふ実験結果を出したことで知られる。年代表的な著作に『腐食・

究員として言献したことのある東北大学金属工学研究所助手として迎えられる。翌年には助教授になり、1959(昭和24)年47歳で教授となられ、1975(昭和50)年に定年を迎えられ名誉教授とされたのであった。

この間の研究で発表された論文は高い評価を以て学会に迎えられ、酸性河水による工作物腐食を



代表著作 腐食/防食の材料科学注2



下平三郎先生 注4

注1 『統括』と題された黄銅製弾丸の腐食割れに関する実験報告 日本科学者 Vol. No. 7 May 1967
注2 『腐食・防食の材料科学』 アクネ技術センター1975・3・30第1版発行、直ちに第2版発行、現在第3版印刷0008・3・10発行 写真
注3 仙台在住の加藤早代内科医院長加藤純二氏の「尽力により、仙台市にお住まいの奥平下平三郎様から提供いただいた。注2の著書の発行に先立って1993・3・10に回覧券を発送し、刊行後の1996年に回覧券の返送を促してある。外に、東北大学腐食化学研究所からの論文寄附リストを取り寄せ頂いた。ここに記し謝意を表す。
注4 金属学会日中交流委員会誌の会報 No. 1-1066-5 発行。ネットの取得
本の南信州紙掲載の後、本書の100項目の資料を飯田市立中央図書館に寄贈する所です。